

- ② 119番映像通報システムを導入
- ③ 虐待のない社会を目指して
- ④-⑤ 特集 地域の見守り隊
安心をみんなの手で
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」 ネットは「マイ広報紙」



仲間と共に

火災や災害に備え地域を守る 消防団員を募集

皆さんの力を地域のために生かしてみませんか。

■主な活動

災害出動、消防出初め式、訓練、火災予防などの広報活動、各イベントへの従事など。

■対象

市内在住在勤在学の18歳以上の方
直接または電話で消防総務課 ☎ 223-9367へ。

愛TV 11/1~

消防総務課 ☎ 223-9367

自分たちのまちは自分たちで守る。手と手を取り合う人々の思いが、安心・安全なまちをつくらせていきます。

「放水、始め」。朝の消防訓練場に、りと響き渡る声。荻野地区で活動する消防団の皆さんが、消火訓練に取り組んでいます。火災現場を想定して素早くホースを伸ばし、的に向かって水を放ちます。市内では10代から60代までの518人が学業や仕事の傍ら、消防団員として活動しています。メンバーは月数回、チェンソーなどの資機材や消防車を点検。火災発生時は現場に駆け付け、地震や台風の際は倒木や土砂を取り除く作業に当たるなど活躍しています。

いざという時の地域の守り手として活動する消防団ですが、仕事や生活との両立が難しいなどの理由で入団する人は減少傾向にあります。団員の小松田裕さん（46・上荻野）は「いろいろな職種や幅広い年代が、活動を通じてつながりを持っているところが魅力の一つ。火災現場などに行く人と人手が足りないと感じるので、地域を守るためにも一緒に活動する仲間が増えたらうれしい」と話します。

まちを守る 消防団

Q Zoom Up

現場の状況をリアルタイムで確認

119番映像通報システムを導入

緊急時に通報者のスマートフォンで現場の状況を撮影し、消防本部の指令センターと共有できるシステムを10月から導入しました。火災や救急などさまざまな災害現場で活用し、迅速な消防・救急活動につなげていきます。

市内では昨年、約1万9000件の119番通報がありました。一刻を争う状況で、通報者が現場の状況や病気の状態を声だけで説明するのは困難です。応急手当てが必要な場合に、「正しく処置できているのか不安」という声も上がっていました。現場の情報を正確に理解し、より素早い対応につなげていくため、スマートフォンからの映像をリアルタイムで確認できるシステム「Live119」の運用を新たに始めました。

現場の状況を映像で把握

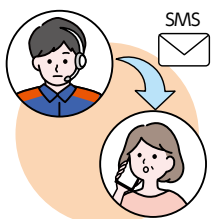
システムはスマートフォンからの1



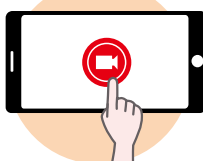
より迅速かつ正確な対応が可能に 愛TV 11/1~

Live119の使い方

電話で伝えにくい現場の状況を指令センターと映像で共有できるシステムです。



①スマートフォンの音声スピーカーに切り替え、指令センターから送られるSMSを確認します。



②送られたURLを開き、注意事項などを確認した上で撮影を開始します。



③指令センターに映像が共有されます。指令員から、応急手当てなどの指示があります。

【その他の機能】

- ・位置情報を取得して正確な災害地点を特定
- ・動画で確認しながらの応急手当てが可能

【利用上の注意点】

- ・通報者の安全が確保できる場合のみ利用
- ・通信料などは通報者の負担

システムを体験した星野咲子さん（49・飯山）は、「気が動転する状況の中、音声で全てを伝えるのは難しいた

19番通報のうち、指令員が必要と判断した場合に使用します。通報者へ映像送信の協力を依頼した上で、指令センターからショートメッセージ（SMS）を送信。カメラで映像を共有できる状態になります。送られてきた映像から、指令員が出血の有無やけがの具合などを素早く確認し、状況に応じて応急手当ての方法などを指導します。口頭での説明が難しい応急手当ても用意された動画で通報者に伝えられるため、命を救える可能性が高まります（左欄参照）。

問 指令課 ☎21-2331

通報から救急隊到着までの初期対応で、救命効果は高まります。消防本部では、定期的に応急手当ての講習を実施し、心肺蘇生法やAEDの取り扱い方法などを伝えていきます。救急現場は、いつ居合わせるかわかりません。もしもの時に落ち着いて行動できるよう、日頃から命を救うための意識を高めましょう。

いざという時に備えて

命を救う行動を学ぼう

応急手当普及員再講習会

救急医療では、現場にいる人の行動が重要です。いざという時に備え、応急手当てや自動体外式除細動器（AED）の使い方などの知識や技能を確認しましょう。



《日時》12月13日 9～12時

《会場》消防本部

《内容》普及員の有効期限更新、技能の維持・向上

《対象》有効期限内（3年）で、市内在住在勤在学の応急手当普及員30人

《費用》3960円（テキスト代）

☎11月4～12日に電話で救急救命課へ。抽選。📍

大切な命を守るために

救急救命課 佐々木 洋(42)



応急手当ての方法を身に付けることは、大切な命を守るための大事な備えです。知識や技術は時間と共に薄れてしまうため、最新のガイドラインを確認し正しい手技を習得することが大切です。

一般の方向けにも、心肺蘇生法やAEDの使い方などが学べる講習会やイベントを毎月開催しています。いざという時に勇気を持って行動できるよう、技術を身に付けましょう。

☎救急救命課 ☎223-9365

無料 見て！触れて！学んで！

あつぎ消防団ふれあい広場



体験しながら、防災を学んで遊べるイベントを開催します。地域を守る消防団と一緒に、思い出をつくりませんか。

《日時》11月9日 10～15時

《会場》市役所本庁舎西側駐車場

《内容》はしご車やミニ消防車への乗車、放水・煙・起震車・キッズレスキューの体験、応急手当ての指導、車両・防災用品・備蓄品の展示、記念撮影コーナーなど。景品がもらえるスタンプラリーも実施。

☎不要。直接会場へ。

市消防本部公式 Instagramで情報発信

イベント情報や隊員たちの訓練、消防署の日常など、普段は見ることのできない一面を発信しています。



情報はこちらから

☎消防総務課 ☎223-9367



地域全体が気付きと関心を持つことが大切

各種相談ダイヤル

■虐待の疑いがある時

平日の場合

こども家庭センター ☎221-0181

《受付時間》9～17時

厚木児童相談所 ☎240-6430

《受付時間》8時30分～17時15分

休日・夜間の場合

子ども・家庭110番 ☎0466-84-7000

《受付時間》9～20時

児童相談所虐待対応ダイヤル ☎189

《受付時間》24時間

■DV相談ダイヤル

こども家庭センター ☎221-0182

《受付時間》平日9～17時

一刻を争う時は迷わず警察(110番)へ連絡してください。

Q Zoom Up

子どもの笑顔と未来を守る

虐待のない社会を目指して

家庭内の問題が複雑に絡み生じる児童虐待は、どの家庭でも起こり得ます。背景には、保護者自身の地域からの孤立などが考えられます。周囲の支援を求めている場合もあるので、周りの人たちが寄り添うことが大切です。

みんなで子どもたちを見守る

昨年、市が受け付けた児童虐待などの相談件数は409件でした。虐待は、子どもの心身を深く傷付けるだけでなく、トラウマ(心的外傷)が残った場合は人間関係を築きにくくなるなど、健全な成長や人格形成に大きな影響を与えます。防止するには保護者だけでなく、地域全体が関心を持って見守ることが重要です。

虐待は、殴る・蹴る・たたくなどの「身体的虐待」、無視する・大声で怒鳴るなどの「心理的虐待」、食事を与えない・育児を放棄するなどの「ネグレクト」、わいせつ行為を強要するなどの「性的虐待」に分けられます(左下欄参照)。

虐待が発生する背景には、夫婦間のトラブルや経済的問題、保護者が過去に受けた虐待などの問題が複雑に絡み合っているほか、配偶者やパートナーに対する家庭内暴力(DV)が子どもに及んでいる場合があります。「立派な大人に育ってほしい」と、「しつけ」や「教育」のつもりが行き過ぎてしまい、虐待に発展するケースもあります。い

ずれも家庭内で起きるため、近所や職場など周りの人たちが気付き、手を差し伸べるのが大切です。

厚木児童相談所の高木聡所長は、「共働き世帯が多くなった現代では、仕事と育児の両立に苦労している場合が多い。『自分たちだけで育児をしている』と、保護者が感じる地域からの孤立感やストレスから、虐待してしまうこともある。日頃から周りの人たちが『元気なお子さんですね』と声を掛けるなど、温かな気遣いの積み重ねが虐待の防止につながる」と話します。子どもに傷やあざがある時やひどく落ち込んでいるのを見た時などに「もしかして」と思ったら、市・県などの相談機関に連絡してください(左欄参照)。

一人で悩みを抱え込まない

「子どもにつらく当たってしまう」「育児の方法が分からない」など子育ての中で感じる不安やストレスは、決して特別なものではありません。市では、相談員が一人一人に寄り添って共に解決方法を探すなど、相談体制を整えています。相談しづらい時は、自分

虐待の種類

児童虐待は、大きく4種類に分かれます。「しつけ」は子どもの成長を助けるために必要ですが、子どもの心と体を傷付ける行き過ぎた行為は「虐待」となります。

■身体的虐待

- ・殴る、蹴る、たたく
- ・激しく揺さぶる
- ・どこかに閉じ込める

■ネグレクト

- ・必要な治療を受けさせない
- ・食事を与えない
- ・不潔なままにする
- ・自動車の中に放置する

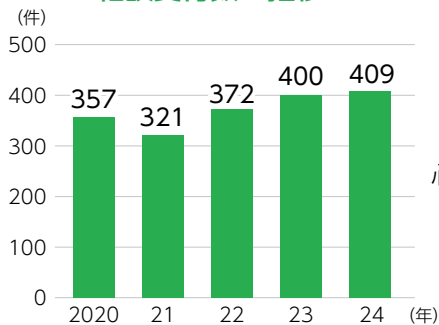
■心理的虐待

- ・大声で怒鳴る、脅す
- ・きょうだいで差別する
- ・子どもの前で家族に暴力を振るう

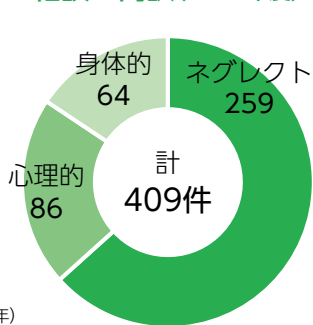
■性的虐待

- ・性的な行為を強要する
- ・子どもに性的行為を見せる
- ・ポルノ画像などの被写体にする

相談受付数の推移



相談の内訳(2024年度)



不安やストレスを感じたら

子育てでストレスや悩みを抱えた時に試してみよう。解決しない場合は相談してください。

《解消方法の例》

- ・深呼吸をする
- ・トイレなど一人になれる場所にこもる
- ・一時預かりを活用し、子どもと離れる時間をつくる
- ・夫婦で役割を分担する
- ・自分の気持ちをノートに書く
- ・完璧を求めないようにする
- ・ゆっくりお風呂に入ってリラックスする

の気持ちをノートに書き出したり、ゆっくりお風呂に入りリラックスしたりするのも効果的です。

11月は「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」期間です。悩みや不安は一人で抱え込まず、友人や家族などの周りの人、市などに相談しましょう。

問 こども家庭センター ☎225-2244

オレンジ・パープルリボンを知っていますか

市では、児童虐待防止シンボルカラーのオレンジと女性への暴力根絶シンボルカラーのパープルを組み合わせたりぼんを制作し、啓発活動に取り組んでいます。☎こども家庭センター ☎225-2244

■ライトアップ

《場所》アミューあつぎ

《内容》外壁をオレンジ・パープルに照らす

■特設ブース展示

《場所》あつぎ市民交流プラザ、公民館、中央図書館

《内容》ポスターなどの展示、啓発物品の配布

いずれも期間は11月1～30日。



詳細はこちら

リボンを販売

障がい者就労施設で手作りしたりぼんを年間販売しています。

価格 1個200円

☎電話またはEメールに〒住所、氏名、電話番号、数量を書き、工房らしくま ☎282-9138・✉yukuriko@ai.ayu.ne.jpへ。



特集 地域の見守り隊

安心をみんなの手で

昨年、市内で発生した犯罪の件数は1385件。ここ数年で件数が増加する中、地域での暮らしを守るために力を尽くしている人たちがいます。地域に寄り添い、日々の活動をする二人の姿を追いました。

📞 くらし交通安全課 ☎ 225-2148

誰かのために
できることを

荻野地区青パト隊
奥脇 篤仁 さん (73・上荻野)

顔を出していた太陽が姿を消した頃、軽トラックの屋根に青色の光が灯ります。真剣な表情でハンドルの握るのは、荻野地区青パト隊の奥脇篤仁さんです。「事件や事故を未然に防ぎたい」と、地域の安心・安全のために車を走らせています。

自分にできることを

青パト隊は、青色回転灯を装備した自動車による自主防犯パトロール団体です。市内では2004年に活動が始まり、現在は市内全域で約400人が活動しています。隊長の奥脇さんを中心に22年に立ち上げられた荻野地区は、33台の車両と34人のメンバーを擁する市内最大規模の団体です。「隊を作ろうと思った時、地域に関心を持ち一緒に動いてくれる人がたくさんいてうれしかった」と、笑顔を見せ、同じ思いを持つメンバーたちと汗を流しています。

奥脇さんが、防犯意識を強く持ったのは市防犯協会の委員として携わった時です。市内の事



下校する小学生の見守り活動



優しく声を掛けるメンバー

件・事故率の高さを知り、「厚木は平和だと思っていたので驚いた。どうにかしなければと感じた」と振り返ります。60歳を過ぎて仕事が落ち着くと、その思いを持って自治会活動に積極的に参加。地域内で不安に感じる箇所を把握して住民の声を聞くうちに、安心・安全に取り組みむ必要性をますます感じるようになりまし

た。「みんなが不安のない暮らしを送るには、どうすればいいのか。何ができるのか」。考えを巡らせ、行動に移すようになりました。

信頼を築く

パトロールは、各担当者が活動日と巡回コースを自由に決め、昼夜を問わずに実施します。奥脇さんも、主に夕方から夜にかけて、週に2回程度を活動しています。人けのない場所や空き巣が起きた住宅地など、気になる箇所を巡回しながら周囲に気を配っています。

不審者などの情報が入れば、メンバーと共有し、現場に近い人や時間のある人が見回りに行



集まったメンバーたちで情報を共有



気になる箇所は車を降りて確認



年間約90回パトロールを実施する奥脇さん

防犯に強いまちへ

防犯カメラの設置や相談窓口など、安心して暮らせるまちの実現を目指した取り組みを進めています。 📞 くらし交通安全課 ☎ 225-2148

■見守りシステム

犯罪の抑止や発生時の犯人特定・早期検挙につながる防犯カメラを、公民館や児童館などの公共施設に設置。約5年間で、300施設ほどに取り付けます。

《設置場所》 公民館、児童館、公園、保育所、老人憩の家、消防器具庫など



■移動番屋

各地区の公民館や郵便局で月1回程度、市民安全指導員が訪問して「移動番屋」を開設しています。

《時間》 11時～12時30分

《内容》 防犯相談や啓発、情報提供など

📞 不要。直接会場へ。実施日程は市HPに掲載。



市HPはこちら

防犯のポイント

犯罪被害に遭わないために

👉 空き巣などの窃盗

- ・玄関や窓に加え、盗難の多い自転車などの施錠を徹底
- ・防犯ガラスや防犯フィルムを使い、割られにくくする
- ・防犯カメラやブザーなどを活用する

👉 特殊詐欺

- ・電話でお金のお話が出たら、詐欺を疑う。家族などに相談
- ・防犯機能付き電話機を設置

👉 その他

- ・暗く、人通りの少ない道は避ける



子どもたちのメリーメー

地域での自助や共助で
犯罪は防げる

日本市民安全学会 会長
石附 弘さん (80)



専門委員として、セーフコミュニティの国際認証や市民生活の安全向上などに長く携わっています。地域や事業者、警察などのさまざまな人たちの努力で、治安が良くないといわれていた約20年前から、市内の犯罪や交通事故の件数は減少しました。住みやすい魅力的なまちになってきたと感じています。

しかし、コロナ収束後は、全国的に事件や事故が増加傾向になっています。地域を安全に保つには、子どもの見守り活動や日頃のコミュニケーションなどを通じ、地域コミュニティを築くことが大切です。「認知」「予測」「制御」といった人の安全能力には限界があります。一人一人が防犯意識を持ち、地域全体でその限界を補うことが、安心安全な暮らしにつながるのではないのでしょうか。

地域に密着

「こんにちは。元気になっていましたか」「変わったことはありましたか」。優しい笑顔で住民に話しかける秋田伸一さんは、南毛利駐在所に勤務する警察官です。秋田さんは11年間、駐在所に暮らしながら地域の安全を守っています。

地域に根付いて
暮らしを守る

南毛利駐在所
秋田 伸一 さん (51・長谷)



巡回中に笑顔で会話をしている秋田さん



登校する子どもたちの安全を守る



ミニパトで地域をパトロール

一人でも多くの笑顔を

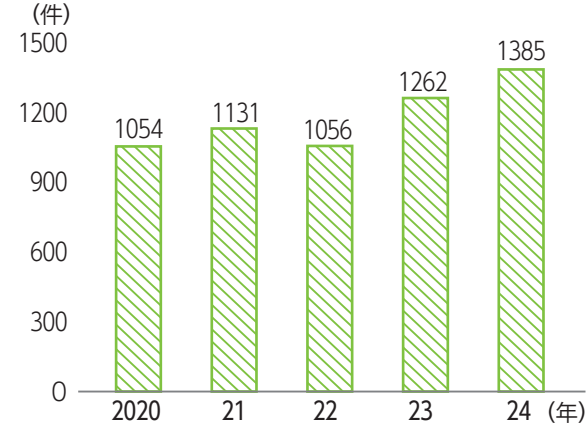
秋田さんの一日は、パトロールから始まります。子どもたちの登校時間にはミニパトを走らせ、学校の周辺に危険がないかを確認。時には横断歩道に立ち、通学する児童たちに「おはよう」と元気に声を掛けながら送り出します。

増加する市内の犯罪に対応するために、各家庭を訪問して防犯を呼び掛けることも欠かしません。「犯罪を未然に防ぐには、普段と違う気付きが重要」と、訪問先では言葉を交わしながら不審な点がないかを確認しています。事件だけでなく、「見覚えのないフアックスが届いた」「敷地にへびが出た」などの困り事にも耳を傾け、住民たちの生活に寄り添っています。「市内は空き巣や自転車の盗難、特殊詐

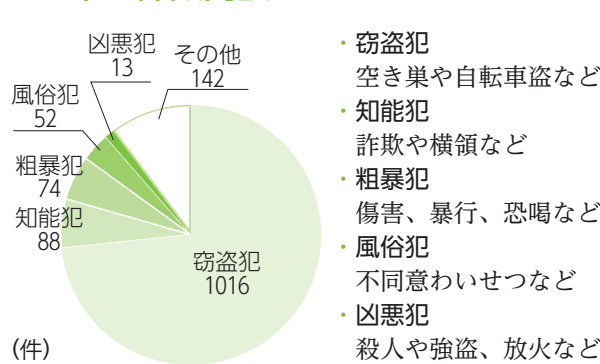
顔覚えてもらうことが安心につながればと、地元の祭りや学校での特別授業、自治会活動、子ども食堂などに参加。積極的に地域と関わる機会を増やしています。「着任時に歓迎会を開いてくれたり、駐在所の草刈りをしてくれたり、私も地域に支えられている。だからこそ皆さんの生活を守りたい。深まるつながりが、秋田さんを動かしています」。

「定年までこの地で汗を流し続けたい」。そう意気込む秋田さんは、頼れる身近な警察官として、これからも住民一人一人の暮らしを見つめ続けます。

市内の刑法犯認知件数



■24年の件数内訳



- ・窃盗犯
空き巣や自転車盗など
- ・知能犯
詐欺や横領など
- ・粗暴犯
傷害、暴行、恐喝など
- ・風俗犯
不同意わいせつなど
- ・凶悪犯
殺人や強盗、放火など

市内36カ所での利用が可能に シェアサイクルの実証実験の協定を締結



市役所前にもステーションを設置

新たな交通手段としての有効性と課題を検証するため、シェアサイクルの実証実験の協定をアプリケーションを提供するオープンストリート、江ノ島電鉄と三者で締結しました。市役所や公民館、公園などに専用ステーションを新設。民間事業者が既に設置しているものと合わせ、市内36カ所での利用ができます。自転車はスマートフォンのアプリで借りられ、30分・160円から使えます。シェアサイクルを導入することで、公共交通機関が担う機能の補完、交通混雑の緩和、二酸化炭素の排出削減、観光客の移動手段確保が期待できます。山口貴裕市長は「渋滞の緩和や環境への負担が少ない交通手段として期待している。今後とも協力をお願いしたい」と話しました。

消防署を見学して消防士を体験 あつぎ消防庁舎クルーズを初開催

厚木消防署は、市内で最も歴史のある庁舎で、消防本部の機能は2027年度に完成予定の複合施設「あつめき」へ移転する予定です。



子どもたちからは質問が多くあがった

消防署の仕事や施設を見学できる「あつぎ消防庁舎クルーズ」を10月、厚木消防署で初めて開催しました。親子連れなど1100人が参加。普段は入れない通信指令室や消防長室、仮眠室などの見学や、心肺蘇生法、ミニ消防車の乗車などを体験しながら、防火や救急の大切さを学びました。親子で参加した関屋ちえみさん(40)は「庁舎の隅々まで見学でき、貴重な経験になった。体験ブースが多くて子どもも大喜び」と話し、娘の真凛さん(4)は「たくさん消防車を見られて楽しかった」と笑顔を見せました。

未来へ一歩つながる
あつぎ70年

みんなで祝おう！70周年

2025年2月1日、市制施行70周年を迎えました。節目の年を皆さんとお祝いするため、スポーツ・文化芸術・歴史など幅広い分野で事業を実施。連載では、旬な話題を紹介していきます。

今月の話題 歴史フリーマガジン「**厚木人**」を発行

毛利氏との関わりを中心に、歴史をなぞりながら市内に残る文化財やスポットを分かりやすく紹介しています。

1月には、毛利博物館所蔵の貴重な資料を展示する「寿一毛利家と共に―」をあつぎ郷土博物館で開催する予定です。

11月から市内公共施設などに配架する

デジタル版「厚木人」はこちらからご覧ください。

企画政策課 ☎225-2450



まちの魅力を遊んで再発見

荻野運動公園で「じゃんぼかるた大会」を開催

「じゃんぼかるた大会」を、9月に荻野運動公園で開催しました。大会は小学生の部と年齢制限のないファミリーアの部に分かれて実施。市内の小学生や家族ら31チーム・135人が参加しました。「幅広い世代が楽しみながらまちの魅力を再発見できるように」と一般社団法人あつぎものしり委員会が制作した「厚木かるた」をA1判に拡大した札を使用。詠み札が詠み上げられると、絵札へ向かって参加者が駆け出し、会場は大きな声援に包まれました。



巨大なかるたに悪戦苦闘

楽しみながら「自分ごと」に 「あつぎSDGsフェスティバル」を開催

SDGs(持続可能な開発目標)を楽しみながら学べるイベントを9月にアミューあつぎで開催し、約2600人が訪れました。会場には市内大学や団体が協力し、工作や体験、展示など30種類以上のメニューを用意。来場者は、クイズラリーやドローン疑似体験、巨大大防災すごろくなどで遊びながら、笑顔でブースを回りました。



自らが駒になるすごろくを楽しむ参加者

高いジャンプやアクロバチックな演技が魅力の自転車競技BMXやスケートボード。都市を舞台にして繰り広げられるため、アーバンスポーツと呼ばれる。2024年のパリ五輪では、スケートボードとブレイキンで日本代表がメダルを獲得。選手たちの力強いパフォーマンスは、記憶に新しいところです。若者を中心に人気を集める競技の魅力を知ってもらうため、「アーバンスポーツフェスティバル」を厚木



厚木市長 山口貴裕



右から大塚さん、私を挟んで中村さん、白井さん

私も皆さんに負けまいと人生初めてのBMXに挑戦。慣れない小型のバイクで急勾配を下るのは怖かったですが、慣れると風の中を走るのが気持ちよく童心に返って楽しめました。体験することで、魅力の一端を知ることができたと感じています。スポーツは「する」「みる」「支える」など、さまざまな形で楽しめるものです。今後も、子どもから大人までが生き生きと過ごせる「スポーツの聖地」をつくってまいります。

中央公園で開催しました。本市出身のスノーボーダー・大塚健選手、スケートボードの白井空良選手、BMXライダーの中村輪夢選手のオリンピック3人がトリックショーに登場。デモンストレーションでは、手すりやジャンプ台を使った技を披露してくれました。

タウンガイド

11月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
						2
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 FAX=ファクス番号 ☎=Eメール HP=ホームページ
 ☎=講座予約システム (70th)=市制70周年記念事業
 愛TV 11/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「七沢の亀石」

#9月22日撮影
 #亀石
 #ハイキング
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



あつぎストリートフェス (市民協働提案事業)

11月15日、16時30分～18時30分。
 中町花の公園。路上ミュージシャンのストリートライブ。無料。☎不要。
 ☎文化魅力創造課 ☎225-2508。

始めるなら今がチャンス！ スキマFIT over 40

12月11日、14時～15時30分。小鮎公民館。保健師による健康づくりの講話とラテン系の音楽に合わせた運動。市内在住の40歳以上20人。無料。
 ☎11月20日までに健康医療課 ☎225-2201へ。抽選。☎

市久保奨学金の奨学生を募集

高校などへの入学費用を支援する入学準備奨学金、修学費用を支援する高校等修学奨学金の希望者を募集します。

《対象》①修学の意欲がある②経済的な理由により修学が困難③学業成績が優秀の全てを満たす

市内在住で2026年4月に高校などへ入学予定の中学3年生20人。☎市立中学校から配られるチラシを確認し、申請書などを12月3日までに担任教諭へ。市立中学校以外の方は教育総務課 ☎225-2600へ。選考あり。

都市計画道路「本厚木下津古久線」一部区間の供用開始

11月24日から本厚木下津古久線の一部を供用開始します。当日10時から開通イベントを開催します。詳細は市HPに掲載。☎交通混雑対策課 ☎225-2310。



市民ふれあいマーケット

11月16日、9時30分～14時（雨天中止）。厚木中央公園。日用雑貨

70th 地下道が楽しい空間に

CHiKaフェス 2025

楽しくにぎやかな地下道に遊びに来ませんか。
 ☎企画政策課 ☎225-2450

《日時》11月8・9日 10時～16時30分
 《会場》本厚木駅前東口地下道
 《内容》ハンドメイドマーケット、障がい者手作り製品即売会、けん玉教室、ラジコン広場、スタチューストリート、モルック体験など

詳細はこちら

や衣料品などの不用品を100店舗が販売。☎環境事業課 ☎225-2793。

宿愛甲プレミアム商品券の販売

宿愛甲商工振興会会員の店舗で使える商品券を販売します。

《販売日》11月9日～《場所》宿愛甲商工振興会事務所（愛甲東2-3-12）《価格》1セット5000円（500円券×13枚、6500円分）《販売数》1600セット（1人4セットまで）《期限》2026年1月18日まで。☎不要。先着順。☎商業観光課 ☎225-2840。

教育委員会委員の任命

教育委員の退任に伴い、10月16日付けで高木友子氏(56)が任命され

全国瞬時警報システム(J-アラート) 全国一斉情報伝達試験

J-アラートの確認のため、防災行政無線で試験放送を実施します。
 日時 11月12日 11時～
 (予備日：12月3日)
 ※気象状況などにより中止の場合あり。

☎危機管理課 ☎225-2190

ました。☎教育総務課 ☎225-2600。

給与支払報告書などの配布

11月17日から給与支払報告書の総括表などを配布します。

《配布場所》市民税課《対象》事業所や事業主の方。☎市民税課 ☎225-2011。

みんなの声でまちをつくる

《パブリックコメント》

■市子ども育成条例の改正

《閲覧期間》11月4日～12月4日。
 ☎こども育成課 ☎225-2262。

■市学校給食費に関する条例施行規則の改正

《閲覧期間》11月10日～12月10日。
 ☎学校給食課 ☎225-2683。

いずれも《閲覧場所》各課、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、保健福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、市HP《応募方法》閲覧場所にある用紙で確認。

厚木市 市民参加

検索

小鮎地区の文化に触れる

文化財を一般公開

天井画や県指定の仏具など、普段は公開されていない文化財が見られます。☎文化魅力創造課 ☎225-2509

●一般公開

日時 11月29・30日 10～15時
 会場 本禅寺（飯山3515）、
 本照寺（下古沢133）

●文化財トーク

日時 11月29日
 本禅寺＝13時～13時40分
 本照寺＝14時10分～50分
 内容 解説付きで文化財を鑑賞

●写経体験会

日時 11月29・30日 10～15時
 会場 本照寺

■マインドフルネス体験会

日時 11月30日 11～12時
 会場 本照寺
 内容 瞑想を通じ、考えずに感じることを練習
 定員 20人

いずれも☎不要。■は11月26日までに文化魅力創造課へ。先着順。



ATSUGI婚活ツアー いちご狩り体験&ミニセミナー

秦野市と合同で開催します。旬の味覚を味わいながら、出会いを見つけませんか。

日時 12月20日 10～13時 会場 レンブラントホテル厚木など
 内容 交流会、イチゴ狩り、対象 25～39歳の男女各20人
 アピール・告白タイム、※男性は市内または秦野市在住に勤（学生を除く）。
 ミニセミナー
 費用 1500円

☎市役所や公民館にある申込書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで11月30日（必着）までに〒243-8511企画政策課 ☎225-2450・FAX225-3732・☎1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。市HPからも申し込み可。



詳細はこちら

ホット

インターネットモニターからの意見を紹介

メール

Hot E Mail

インターネットモニター募集中
 厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2043

10月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆小泉今日子さんが講演会でどんな話をするのかがとても楽しみ／60代女性 ◆今後も子どもに合った学びを提供してくれることに期待したい／30代女性 ◆食品ロスを減らして環境に優しい生活を送りたい／40代男性 ◆インタビュー記事を通して読書することの大切さと楽しみを教えてください／70代以上男性 ◆家族でどの鳥が良いかを話して楽しかった。投票結果が楽しみ／40代女性

編集後記

学生の頃、市外の友人から「厚木って治安の悪いところでしょ？」と言われ、暗い気持ちになったことがあります。今回、まちの安心・安全に取り組む方たちの姿を近くで見て、まちが変わり、私たちが安心して暮らせているのは、パトロールや呼び掛けなど多くの人たちによる努力があるからだとなりました。今後は自信を持って「厚木は良いまち」だと周りの人たちに伝えていきたいです／森





★大道芸演技ポイント
①インフォメーション

詳細はこちら

あつぎ国際大道芸

11月8・9日 11～18時

一流アーティストたちのパフォーマンスを間近で楽しめるイベントです。☎商業観光課 ☎225-2840

〈同時開催イベント〉

- ①あつぎ愛・物産フェア、あつぎ技能祭、キッズランド(大道芸体験など)
- ②あつぎ消防団ふれあい広場(9日)
- ③なかちょう大通り出店村
- ④あつぎグルメフェア、KENTO MORI DREAM LIVESHOP・心のままに動け、未来(8日)
- ⑤CHiKaフェス 2025
- ⑥南口ホコ天まつり(8日)

横手市増田まんが美術館厚木出張所

企画展 **ゲンガノミカタ** 11月15～30日 10～18時 無料

あつぎ市民交流プラザ アートギャラリー1～3

漫画家の矢口高雄さん、高橋よしひろさん、小島剛夕さん、能條純一さん、土山しげるさん、東村アキコさんの複製原画を展示し、美術館の世界観を再現します。

☎企画政策課 ☎225-2050

オープニングセレモニー

15日10時。先着100人に横手の物産をプレゼント。

横手市物産販売

市まるごとショップ「あつまる」で、グッズや横手市の名産品を販売。

あつぎのあゆみ展

会場：あつぎ市民交流プラザ アートギャラリー4

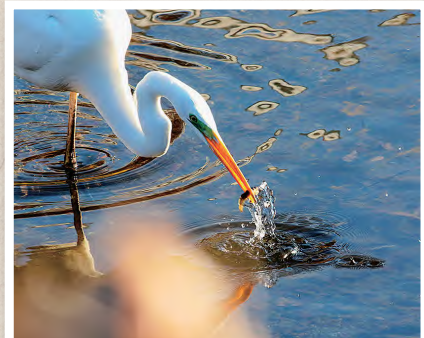
市の70年の歩みを感じられる写真や動画を展示し、街の歴史や風景の移り変わりを紹介します。

自然歳時記

ダイサギ

サギ科

体長90センチほどで、口ばしは黄色。60センチで黒い口ばしのコサギよりもはるかに大きい。ダイサギは、肉食性で魚類や昆虫、カエルなどをよく食べる。荻野小学校の観察会で訪れた荻野川で見つけた。 写真・文／吉田文雄



透き通った水が泳ぐ魚を映し出し、銀鱗がキラリときらめく。そこへダイサギやコサギが飛んできて、思い思いに餌を探している。コサギは足を震わせ、ダイサギはじっと水面を凝視していた。

その時、ダイサギが電光石火の早業で何かをくわえた。水が滴る黄色い口ばしの先には、驚いたことにウシガエルのオタマジャクシがくわえられていた。

特定外来生物に指定されるウシガエルは、全国各地で駆除されているが、追い付けない状況である。鳥たちの力を借り、地球を住みよい環境にしていきたいと思う。